

5

河川名

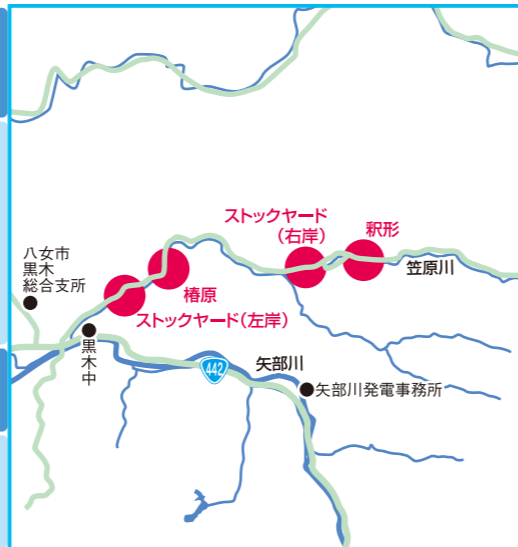
かさはらがわ

矢部川水系

笠原川

特徴・アピールポイントなど

親水や生態に配慮した魅力ある川としての再生を目指し整備を行いました。



笠原川では豪雨の影響により、流域内において多数の山腹崩壊が発生しました。それに伴い、大量の土砂が笠原川流れ込み、河川施設の被災や河道閉塞による浸水被害が発生しました。本事業では、被災した護岸の復旧と併せて河川の埋塞した部分について元の河床並に河道掘削を実施しました。

枳形



災害復旧にあたって環境に配慮した点

護岸は環境・景観へ配慮し、石積みとしました。石積みに使用する玉石はほぼ全て現地発生材としました。河道掘削により大量に発生した土砂から玉石を採取するため、仮設のストックヤードを整備しました。ストックヤードで採取した玉石は石積みへの使用だけでなく、水生生物へ配慮し、河道掘削後の河床へ適宜配置しました。流下能力に影響のない露岩部は極力残し、河畔林の保全にも努めました。



露岩部(枳原)



ストックヤード(左岸)



ストックヤード(右岸)

災害からの復旧で環境に配慮した事例

平成24年7月の九州北部豪雨により大きな被害を受けた笠原川では、災害復旧助成事業により平成24年から概ね5年間で整備されています。

笠原川が流れる八女市黒木町は「八女茶発祥の地」と言われており、霊巖寺の奇岩が有名です。また、農林業が栄んで、棚田や茶畑からなる田園風景が広がっています。現在は、地元NPOの活動もあり、それらの里山田園風景が維持されています。国際ボランティア活動や農林業体験のフィールドとしても利用されており、地域外からの来訪者も多い場所です。

枳原



被災直後



河床掘削後

護岸復旧直後



河床復元

枳形



被災直後



被災直後



暫定河道掘削



復旧後



復旧後